

3. 亀岡市春現寺大般若経調査

—京都府暫定登録調査の取り組み—

正瑞 千幸

1. はじめに

春現寺は亀岡市東別院町東掛に所在する曹洞宗寺院である。本調査では、亀岡市協力のもと春現寺所蔵大般若経に対して京都府暫定登録調査を実施した。この大般若経は平安院政期の経典を南北朝・江戸時代の経典や宋版で補完していることで注目される。

2. 調査概要

調査日 2024年11月27日

調査場所 京都府亀岡市春現寺

調査員 稲穂将士（京都府教育庁指導部文化財保護課）、飛鳥井拓（亀岡市文化芸術課）、横内裕人（教員）、正瑞千幸、田中琢登、濱野覚生（以上博士後期課程）、河村如乃、趙金実（以上博士前期課程）、藤村昂輝（研究生）

調査内容 計測、調書取り、撮影

3. 成果

今回の調査では総数約600帖のうち、約100帖の調査が完了した（写真1）。調査の結果、天明の大火で焼き出された京都居住の表具師岡本九兵衛が東掛村に滞留し、村民の助力を得て、天明8年（1788）夏に装訂を一斉に調えたことがわかった。

また、平安末期に書写された経典の紙背に宝珠型の黒印が捺されていることを確認した（写真2）。宝珠印の由来を考察することで、春現寺大般若経の成立・伝来過程の解明に繋がる可能性が高い。本調査は次年度も継続して実施する予定である。



写真1 調査風景



写真2 紙背黒印

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
